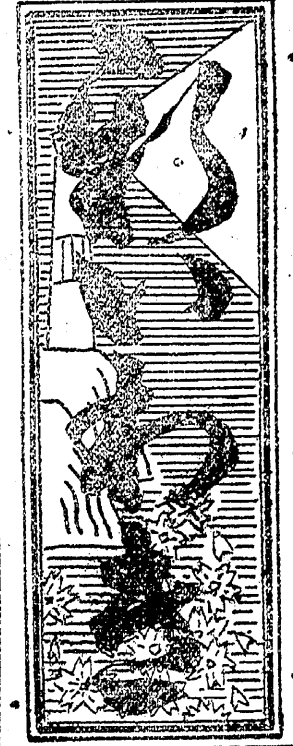


【刊夕一日十月二十】



依日大新大
一ヶ月 十五
部 二十五
行 四〇
所 指 定
行 業 別 人
印 刷 人 半 谷 政 立
福 島 縣 平 南 町 伊
新 い は き 新 聞 社

黒ずむ師走の巷に

ポツ／＼と金故の悲劇

總勘定を控いて行詰る
財界に現はれる種々相

一年中の總決算が行はれる幾晩間近に於て金故の悲劇頻發は今に始まつたことではないが行詰る年の瀬よりも財界のそれが層一層に甚だしい今年の暮は更に惨めなものが續出するであらうことを想像されてゐるが先頃好問村の納税組合長が生活難から使ひこんだ金の申譯に虚偽の盜難を訴へた喜劇ものを皮切りに愈よこの種の事件が黒ずむ師走の空に弗々と現はれて來た

金入用

猫イラズ

石城郡内郷村の宮同村々會議員中田良三(三)は九日の午後十一時過ぎ居宅二階に於て猫イラズを多量に服し自殺を圖つたが死切れず若し中を家人に發見されて醫師の手當により危ふき一命を取止めたが原因は家業の米穀商が現下の不景氣で暮れ仕末がつかなくなつた直に間をからである

是れはまた

殺つた言掛

石城郡澤渡村の市市宣生れ川崎庄作(三)は九日午後十時同郡好問村の村議志賀次郎方へ主人の不在を見て取り返す(三)を引とらへ忙を呈してゐるが最も

詩壇短歌

三ツ二ツツ

「木枯」
木枯の荒める夜半はなか／＼に、夢安からぬ闇の中かな (千葉)

鐘の音に自覺めて見ればいつしに木枯止みて朝のかそけさ (阿保)

なやましき心抱きて歸り來し深夜の町に木枯の吹く (瀧川)

「密柑」
ころげでし密柑高々さし上げて笑みかたまける甥のかほばせ (大平)

冬されば山家の庭の日南に密柑黄ばり枝もたわ／＼に (只野)

温泉のあるじ數多の客を案内して密柑畑に連れ行きにけり (永山)

米價維持の爲めに

窪信の目醒しい活動

独自の資金融通で農業倉庫から溢れる既に二千俵

石城郡第一の米産地である石城郡窪田方面は愈よ出合の活動は窪田信用組合で廻り盛期を迎へて勿來穀檢去月下旬から開始したる農業者は自ら手右舞の多業倉庫入の俵米に對する時價八掛の貸付融通(一俵五

平町の十三日會

資金を以て日歩二

録二厘宛に農民の希望を容れ取扱既に二千俵に近づき四箇に六箇の米倉が狹隘三日午後七時から常盤銀行を告げて民間倉庫借入中で樓上に例會を籌備するが今回の講演は左記の如くである

同地方

本年の生産検査は當局の熱心なる奨励で共同受檢組合八ヶ所に上つてゐるから少なくとも一萬五千俵に達する見込である

質屋融通を通過

古物商が激増する
深刻な不景氣が其處まで

平署管下にて五百七十三

○木質宿新許五廢四現 在四四、人事周旋新許四 現在一七、湯屋異動なし 一、印刷業同二五、印刷 所新許一現在二四、興業 場異動なし

古物商

に十八の廢業を見る五百七十三人を現在するもので同業増加の原因とも見らるべきものは矢張り現下の不景氣に暮しを立てず裝身具類の如き

平町諸物價

▲白米一等(一キロ)十五 錢、二等(一四錢)、三等十 三錢、白米(一キロ)十一 錢、中麥十五錢、味噌並 (一貫目)五十錢、醬油並 (二升)四十五錢、清酒並

八割を

現狀維持と 左記類別の賞與は惠ま れるだらうと唱ひられてゐ

歩合に

に大體の見 詰がついたものは上局の方 計とする上に軽く下に重い ものとして判任彼の減額を 一割と覺悟され雇員の十 一割並に備人の

前年の

通り來る十 五日頃までに發表と同時に 給與されるのであるから鐵 道員だけは最もと不景氣知 らずと云つてよい

三十一年前の

家出搜索
石城に居るら しい模様から

屠畜數

平署管内の 十一月中に 二百廿五頭

近づく鐵道賞與金

流れ込む二萬餘圓
平驛關係の六百五十名に 行渡る一人平均五十六圓

見込

でも三萬圓 以上は來るらしい同驛關係 現在に人員は驛と機關庫及 び保線區並に檢車を合せて 六百五十名を算し之れを資 格別にすると判任八十名雇 員三百次は備人の二百七十 名でボーナス

俳句

満莊壽主人
すりこ木も炭打つ程に老 煙にくべる炭が餘り長過ぎ 爐にくべる炭が餘り長過ぎ 爐にくべる炭が餘り長過ぎ

九十錢▲木炭拾九(一貫 目)二十一錢、割十四錢 雜木十六錢▲砂糖白(百 匁)十四錢、赤十一錢▲ 肉類豚上(百匁)五十錢 並三十錢、牛上六十錢 並三十錢(以上)

平署管内に於ける十一月 中の屠畜數は依然前年に比し て牛及び豚を減じ増加せる ものは馬のみであるが其頭 數は牛一三、犢牛一、馬八 一、豚一三〇計二二五であ る

十一月中に 二百廿五頭

平署管内に於ける十一月 中の屠畜數は依然前年に比し て牛及び豚を減じ増加せる ものは馬のみであるが其頭 數は牛一三、犢牛一、馬八 一、豚一三〇計二二五であ る

三十一年前の 家出搜索
石城に居るら しい模様から

田村郡栗田村の笹山字仲の内五六萬太郎の繼母大久保つや(九)は夫甚善との夫婦仲悪く明治三十三年頃家出行方不明となり繼子に當る當時室蘭市母戀六に居住する萬太郎が八方搜索中であつたが最近に至り石城郡内郷村大字宮字町四二のつやの長女まつ子の娘で内縁の夫を持つ方に居るらしい模様がある爲め萬太郎から十日平署に搜索方を願出でた

はさむ火もなくして小炭のぬくみ哉 永年

日常めり來りの事であつて 多大の滑稽を覺へる事暫で ず業者會で或る川柳前に於 て高利貸怒つた顔へ炭がは ねと讀んだ事がありすが、 於ては怒つた人を何人もさ びむ程の固まつた火もなく てそれでほか／＼ぬくもつ て居る。常に經驗する處で ありませう



産米の改良に就て

穀摺の巻

而して放射式の脱浮機とは岩田式穀摺機の如きでつて之れは従来の土白とは余計その原理を異にし動力の偉大なる廻轉速度に因り放射板を廻轉し穀を縦に放射して脱浮板の内壁に衝動せしめ縦にもみ殻を剥離するものなるを以て能率のなるに肌擦れ米を生ぜざるの長所を有するけれども使用の際放射板の廻轉速度が粉の剛度と相違せざるときは米に胴割れ或は米粒に破傷を生ずることがあるから細心の注意を以て調節に誤りなきを要する

又ロール式穀摺機とは端光式穀摺機の如き類であつてこれまた比較的胴擦れ米少なく能率は前記岩田式にして幾分劣れる點はあるが岩田式の様に胴割米或は破傷米を生ずるの缺點が少ないので使用の上から比較的安善なる優良機であると思ふ、然れども之れ等は同れも價格の高價なる點に於て小農家には利用困難なるが故に共同購入を以て其惠澤に浴することがよろしい

要するに穀摺を爲さうとするには豫め充分に乾燥したる穀でなければ如何に優良なる機械を使用して脱浮

歩合は低く且つ胴擦れ米や碎米を盡量に生ずること免れかねない故に乾燥不充分なる穀を收穫したる生産者は先づ此の際穀の乾燥を施して其の損もみ摺に着手しなければならぬ

◇御下宿
日當りのよい綺麗な座敷が空いております
平町南町三〇
磐陽舎内 鈴木
(上田外科醫院隣)

本品の位
味噌醬油
正 宗
山崎合名會社
鐘詰總節
電話 釀造部 二七番
營業部 一〇番

御進物には
商品切手

よい貸家
あります

▲場所 平町字四軒町で閑静な所
▲家屋 支那付八疊三間、六疊一間、三疊一間、高軒な造作であります
外に馬廐付
▲宅地二百坪 前に庭園裏に菜園、家庭用蔬菜栽培に好適
◎家賃其他は面談の上
平町字四軒町
電話 六五六番

冬物入荷
伊閑呉服店

驚異的の効果を有する婦人薬
美神丸
内服薬 美神湯
婦人病に悩む人々に一度の實驗を勧む
平町代理店
山野邊藥局
平町五丁目

元 諸
G. H. N
ス ペ ー ン 甘 味 荷 葡 酒
ゴ ル フ ポ ー ト ワ イ ン
¥ 1.10
御婦人の方には少し水を加へて召し上るミ風味一そう佳爽です
(中二) 西村屋藥舖 (中三)

七五三祝と
御幕贈答品は
子他服 モンヤツ
オバー ノリヤツ
マン ト ワイシヤツ
帽 子 オククイ
香 下 箱入タヤ
毛糸製品 化粧石鹸
子 供 カクニ石鹸
箱 追 入三ヶ三十錢
ツルヤから!

優良高々
伊閑呉服店
平町五丁目

婦人五名募集
容姿端麗ニシテ
相當教養アル方
年齢二十才以上三十才迄
御希望の方ハ最廣義塾參シ午後一ヨリ御來店を乞フ
平町田町
イワキサロン
電話三五二番

諸毒下しの大妙薬
安流丸
持山野邊藥局

召上りせま
うまくて...
品がよい...
カフエー
タヒラ食堂
電話 二六二番

ふゆの通學用
然特賣の超尖端
小學生用長ズボン付
特 製..... 95錢ヨリ
極上品..... 140錢ヨリ
中 學 生 用
特 製..... 170錢ヨリ
極上品..... 250錢ヨリ
買 良 店
5 丁 目
モリタヤ洋品店
電話 352番